

(別紙様式＝中学校用)

都道府県番号	24
都道府県名	三重県

【 ① ② ③ 】

*重点をおいた観点にチェックすること

I 学校名及び規模

学校名	安濃町立東観中学校					
学年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	
生徒数	114	107	116	1	338	18

II 研究の概要

(1) 研究の主題

豊かな心を持ち、自ら実践する生徒の育成

(2) 研究主題設定の趣旨

・ 生徒に基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させる指導を行うことにより、生徒は願いや考えをしっかりと持てるであろう。また、いろいろな場や体験・経験の中で学ぶ価値や必然を感じたとき主体的な実践につながると考える。よって、研究重点教科 全学年数学・英語（指導内容に強い系統性がある、段階を追った指導が必要で生徒の理解度に差がやすい）

主題を実現するためには 他の教科においても研究をすすめていく。

(3) 研究の実際

○ テーマ

基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させる指導の工夫

○ 研究の見通し

生徒一人ひとりの実態を多面的にとらえ、学力に関する課題をつかむことで生徒の特性に応じた多様な学習活動と指導法の工夫ができると考える。生徒自身が何ができて何ができていないのかを気づき学習の場面で「わかる」「できる」喜びを少しでも実感できたとき、学習に対して意欲を持って取り組みはじめる则认为。さらに、いろいろな場や体験・経験の中で学ぶ価値や必然を感じたとき主体的に実践していくであろう。

○ 研究の内容・方法

(1) 生徒の実態を多面的に把握・ガイダンス機能の充実

一人ひとりの学習状況や課題を多面的に把握するための1つとして、学習適応性検査を実施し、その結果と日々の活動の中でとらえた姿を総合的に判断しながら、個別に相談を行う機会をもつ。

(2) 基礎基本の確実な定着をめざす指導体制の工夫

・朝の10分間学習

1年では、入学時の学力診断テストと学習状況から判断して、英語・数学・国語（教師作成）、2年では英語・数学（教師作成）、3年では5教科（市販）を実施している。1・2年での実施方法は、授業進度に応じた復習として基礎・基本的な内容を5～6問程度出題している。尚、教科によっては、定期テストに同じ問題を何題か出題し「わかる」「できる」が評価結果につながる実感を持たせる指導につなげている。また、この10分間学習は教え合う人間関係をつくる大切な場でもある。

(3) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善

①選択学習の工夫

2年では数学・英語における習熟度別選択学習。3年では数学・英語における習熟度別選択学習と、理科・音楽・美術・体育・技術・家庭の中から1教科選択する選択学習となっている。

数学・英語は、A（基礎）コース、B（発展・応用）コースがある。コース選択にあたっては、ガイダンスを行い、生徒が自己選択でコースを決定している。決定に迷いのある生徒は教師に相談して決め、途中のコース変更は可能とした。

各学年週2時間を教育課程に位置づけ、数学1時間英語1時間を履修する。学級をA・Bコースに分けて、1時間（数Aコースと英Bコース）、1時間（数Bコースと英Aコース）に分かれて通年で学習する。

【数学】学級別に各コースを指導する。

○Aコース… ゆっくりとしたペースで、基本問題のドリル学習中心で、教科書の内容の定着を図る。

○Bコース… 教科書の問題及び発展教材についての演習。

【英語】

・2年は指導教員2名で学年担当のため、学年全体をA・Bのコース別に、リーディングとスピーキングの講座を開設、学期の前・後で講座入れ替えをして、各コースともに2講座学習できるようにした。(但し、リスニング練習を共通教材とする)

○Aコースリーディング… 1年で学習した内容を中心に少しまとまった文の読みとりを中心に基礎的な力をつける。

スピーキング… 話す活動を中心に基礎的な力をつける。

○Bコースリーディング… 自分でどんどん読む力を伸ばす。

スピーキング… 会話作りを中心に表現の力を伸ばす。

・3年は、学級別を書くコースを指導する。(リスニング練習を共通教材とする)

○Aコース… ゆっくりとしたペースで、1・2年の基本文型のドリル学習中心

○Bコース… 長文の読み取りを中心に自分でどんどん読む力を伸ばす。

数学・英語以外の教科の選択学習は、生徒の興味・関心に基づく選択で、必修教科内容を深めたり発展させ、学習活動に主体的・創造的に取り組む態度や表現力を豊かにす学習の展開をしている。

②少人数教育の指導方法・指導体制・教材の工夫の研究

【数学】

1年—1学期中間テストまでは一斉指導。その後は、教室座席の前後で分けての少人数編成での指導とした。但し、単元の演習問題などで、習熟度別に個人選択で基本コースと応用コースに分けて指導にあたる。正負の数の四則計算の操作方法等を言葉で言わせることで、思考の定着をはかった。

2年—教室座席の前後で分けての少人数編成での指導。但し、単元の演習問題などで、習熟度別に個人選択で基本コースと応用コースに分けて指導にあたる。文章問題を解く学習では、1年の既習事項の確認をすることで、2年の学習事項の理解を容易にさせた。方程式の解き方などを口頭で言わせることによって処理的な計算能力を高めるてだてとした。

3年—習熟度別個人選択による基本コースと応用コースに分けて指導。習熟度別に分かれての学習内容は、基本的に同じ内容を指導するが、進度や練習問題の量、応用的な問題の量でコースの適性に合わせた指導を行う。証明問題や立体の体積を求める問題の学習では、解き方を探る段階で教師自作の模型を使い既習事項を生かし展開していく力を高めるてだてとした。

【英語】

全学年ともALTの授業は一斉指導で、コミュニケーション活動を大切にしている。

毎時間、①プリント(Unitごとに単語や熟語・文が書いてある)を用いたペア学習 ②単語テストを実施。

1年—1学期中間テストまでは一斉指導。その後は教室の座席の前後で2グループに分けての少人数編成とする。プリントを用いたペア学習は、2学期から実施。単語テストは、Unitごとのテスト・再テストも実施し学習の定着を図る。

2年—2学期中間テストまでは、座席前後の少人数編成の指導。その後習熟度別少人数指導。単語テストは、Unitごとのテストも実施する。基礎コースでは、時間を区切って書くなど作業的な活動を取り入れる。

3年—習熟度別個人選択による基本コースと応用コースに分かれる

○基本コース—文法の導入や練習のために学習プリントを使い、問題の難度に応じてヒントを与えている。

○応用コース—問題量を増やし、難易度の高い問題を加え応用力を高める指導を行う。

①一斉指導における個に応じた指導方法・教材の工夫の研究

各教科では、生徒の実態をもとに教科としてつきたい力を設定し、教科の特性に応じた指導法を工夫している。例えば、

【国語】

生徒の実態として、全体的に正しく文を書いたり、わかりやすく興味を持てる文章を書く力に欠けている。そこで教科としてつきたい力を漢字の読み書き、語句の意味・用法の理解等、基礎的な力を身につけた上で、読む力や伝える力(自分の考えや思いをわかりやすく、興味深く表現できる力)とした。

◎漢字の(読み)書き

1年生・・・漢字の成り立ちの学習を十分にし、漢字を丸暗記するのではなく、成り立ちをふまえて、効率よく漢字の読み書きを覚えられるようにする。

2・3年生・ 今一度、漢字の成り立ち（特に部首の持つ意味）を復習し、それをふまえて漢字の読み書きを効率よく覚えられるようにする。知らない漢字でも予想して読めるような学習や、忘れかけたり迷ったときに正しい漢字を構成する力を身につける学習の機会を設定する。

→「楽に漢字を覚えよう」のプリントによる学習、漢字練習用プリントを作成し、漢字の練習をしやすくする。

◎語句の意味・用法の理解

各学年とも、漢字の読み書きの指導と関連させて、漢字練習用プリントを作成するときに、難しい意味を持った漢字は必ず語句の意味を提示して、漢字を覚えやすくすると同時に、語句の意味・用法の定着を図る。

◎文学教材や、説明文教材

単なる内容の読みとりに終わるのではなく、自分の伝えたいことを、どのように工夫したら、わかりやすく興味を持てる文章を書いたり、発表ができるかを学べる場となるように心がける。

以上にあげた教材の工夫と次にあげる個に対する指導を行った。

1. 文法等、小テストを実施する機会を多く持ち、テストを返すときに、注意点などを書き添えるようにした。また、テストの結果をふまえて、理解の足りないところは、再度指導するように配慮した。

2. 「書く」活動では、添削指導を通して、1人ひとりの書くときの直すべき癖とでもいうべきものを直していけるように配慮した。例えば、漢字、語句の使い方、表記の仕方の間違い、文法的な間違い、1文が長すぎたり、段落をつけられない等のことについて、1人ひとり特有の癖を直していけるようにした。

(4) 生徒の学力の評価を活かした指導の改善

昨年度末に現2・3年が、国語・数学・英語でCRT（目標基準準拠検査）を実施、その結果（別紙資料2）をもとに、

国語－基本的な書く力の育成として、漢字の読み書き練習の充実と、この指導と関連させて、語句の意味・用法の定着を図る取り組みを進める。また、わかりやすく興味を持てる文章を書く力の指導方を工夫する。

英語－「書く力」に課題があるため、単語の早覚え練習プリントや毎時間単語のテストを実施。リスニングの力をつけるため本文内容は何度もCDを聞かせる。選択学習でリスニング教材を使う。

(5) 生徒が主体的に活動できる基盤を確かなものにしていく指導と工夫

①学習習慣・規律づくりをすすめる。月間重点目標を掲げ取り組む。

②生活リズムづくりをすすめる。

③自分自身を認識し、受容でき、互いの違いを認め、助け合い、高め合う学級・学年集団づくりをすすめる。

④総合的な学習の時間と必修・選択教科、道徳、特別活動を相互に関連づけながら、生徒が課題意識を持って活動するてだての工夫と実践。

人権・環境・福祉・生き方のテーマを取り上げ、ゲストティーチャーの歩んでこられた生き方を通して学んだり、校外実習から貴重な体験を得た。また、環境教育では理科や技術・家庭科の学習と職場体験学習では国語科の学習とリンクさせて取り組んだ。

(6) 基礎・基本の定着に関わる小・中学校の情報交換の機会をもち共通認識をもつ取り組みをすすめる。

・1年では、5月中旬ごろ、小学校の担任教師が授業参観をかねた小中交流会を実施、中学校での学力も含めた状況を伝える。

・グループ別授業研究では、郡内から提案授業の教科担当者を助言者として招き交流をはかる。

【新規校・継続校】 14年度からの継続校
【学校規模】 10～12学級
【指導体制】 少人数指導
【重点研究教科】 数学 外国語
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】

当該校においては、各教科で、生徒の実態をもとに教科としてつきたい力を設定し、教科の特性に応じた指導法を工夫している。

例えば、英語の教科においては、全学年ともALTの授業においてコミュニケーション活動を大切にするとともに、毎時間、①プリント(Unitごとに単語や熟語・文が書いてある)を用いたペア学習を実施している。